

平成24年度第2回宇都宮市民大学運営協議会議事録

1. 件名 「平成24年度第2回宇都宮市民大学運営協議会」
2. 日時 平成24年8月6日（月） 午前10時～11時40分
3. 場所 人材かがやきセンター 研修室（中央生涯学習センター5階）
4. 出席者 委員 7名（別紙参照）
事務局 11名（生涯学習課）
大竹課長，山中課長補佐，川俣係長，相田総括主査，安納専任主査，
藤田社会教育主事，味野和主事，田邊主事，鈴木地域教育指導員，
田部井地域教育指導員，新井地域教育指導員，
5. 内容 別添資料参照（会議資料）

○ 会長挨拶

- ・ 生涯学習と社会教育の関係は，非常に微妙である。
- ・ 昭和40年代後半から50年代全般の社会教育熱は，青年教育だったと理解し，生涯教育のように「書を読め」ではなくて「考え，語り，行動せよ。」というムーブメントだったと結論付ける。
- ・ 社会教育は漠として捉えどころがないが，生身の人間を捉えようとしたのが，戦後の社会教育であった。
- ・ 今日，高等教育が職業教育の第一線と見られるようになっているが，社会教育的教育は行わないだろう。
- ・ 社会教育を人生学として再生すべきである。

○ 議題

（1）平成24年度宇都宮市民大学前期講座実施状況について

高橋委員⇒専門講座②「生活交通の再生を目指して」における研修7名とは，どのような方か。

事務局）…市職員7名である。

石野委員⇒従来からの市民大学の枠に捕らわれない運営手法とあるが，講座を研修と位置づけた時に，市民大学の本来の姿，講座のあり方と，どうマッチングしていくのか。

事務局）…市民大学の講座であり，高次かつ幅広い視点からの学びの場を提供することを理念として実施しているが，他に行政課題として市民に伝えるべき内容を一部加味している。今回の「生活交通の再生を目指して」の講義も，行政としても広く市民に伝える必要がある講座と考えるとともに，行政担当職員等についても，知識の修得として重要なものと

考えたことから、本市交通関係担当職員の研修と位置付けるとともに、子育て講座については市内保育園及び幼稚園に勤務する保育士、幼稚園教諭の研修と位置付けることを有用であると判断した。

石野委員⇒「研修」をあまり前面に出すのではなく、あくまでも人を集めるために、補うという視点にするとよい。研修を前面に出すと市民大学の趣旨が変わってしまう。

事務局) …本来であれば、研修として位置付けるものではない。今回は、たまたま行政課題とうまく合い、市担当者側の希望もあったため、研修扱いにしたが、イレギュラーなものであった。

齋藤会長⇒今回は試行的なものであった。今までからみると、飛躍していた部分もあり、石野委員からご指摘のあった問題点となった。

石野委員⇒本来の学びのねらいが損なわれないように、企画選考の段階で、もう少し綿密な打ち合わせが必要ではないか。生涯学習コーディネーターに入ってもらうとか、選考委員会のあり方も考える必要があるのかもしれない。市民のニーズにより合致して、可能性が広がるのでは。

花積委員⇒市民大学としてのねらいをしっかりと押さえる必要があるのではないかな。たくさん人を集めることを主にするのか、少なくともいいのか。企画する側としての反省点もある。子育て講座における館外学習で実際に見たこと、感じたことを振り返ってみると、子育てだから母親を対象に、この講座は高齢者向け…というように安易に縦割りで講座を企画するのは、やめた方がよいと感じた部分もある。枠を広げ、様々な世代の方たちの参加というように視点を変えてゆく必要が有る。

齋藤会長⇒多数を目指すのかという問題点。専門的に深く入っていくことも必要であるし、公開講座のように心をひとつにすることも必要である。

事務局) …社会教育は、「個人の要望」と「社会の要請」の両方に応えなければならぬ。国としては、社会の要請に重点を置くという動きもある。市民大学は生涯学習センター講座より高度な内容であってほしい。講座のつくりを例えてみると、コーヒーキャンディーのように、見た目は甘くておいしそう、講座の見た目は楽しそうであり、実際に舐めてみたらちょっと苦い、受講したら内容はなかなか難しい、でも、舐め終えると甘さが残る、受講後の感想は楽しかったというような演出も大切である。いずれにしても、人を集めるような努力はしていかなければならない。

(2) 平成25年度宇都宮市民大学の実施について

檜山委員⇒生涯学習コーディネーターは現在何人いるのか。

事務局) …今年度は67人であり、中央・東・西・南・北・上河内・河内の7生涯学習センターで活動している。

檜山委員⇒目標数値等はあるのか。

事務局) …市の計画の中で、100名を目指すというものがあるが、増やすだけではなく、日ごろの研修会・連絡会で事務局との協力、連携を図ってゆくのが大切であるとする。

齋藤会長⇒「記念事業実施の方向性」について確認とあるが、原案等はないのか。

事務局) …今のところ、特に案はないが、講演会方式でよいのか等、アドバイスをいただきたい。

齋藤会長⇒委員の皆様、何かあるか。

(委員から特に意見は無かった)

特に要望は無いようなので、事務局に対応をお願いしたい。

(3) その他について

平成24年度市民大学専門講座(後期)の実施予定について(事務局説明)

その他、質疑等は無かった。